

# (表1) 回転ドア事故から学ぶ

機械の作動は正常だったのに。。。

# 回転ドアに男児が頭を挟まれ死亡。# 発車間際の電車のドアにベビーカーが挟まれた。

# エスカレーターから転がり落ちた小学生。

人間の機械への対応(man-machine interface): 機器・機械の誤作動の頻度は極めて少い。  
機器・機械を取り扱う人間の無理解・誤設定や、利用法に問題。

人は過ちを犯すもの: ヒューマンエラーの頻度はある程度まで減少。

ゼロにすることは不可能。

「あってはならないこと」: 希望・幻想・虚構。現実的には、ある確率で「起こることが必然」。

経済性その他の要因によって歪められる可能性。

責任限界を常に明確に: 医療処置・技術を施したらサイン、サインしたらすべての責任はサインした人に。医療ミスはときに、医療スタッフ自身にも一生継続する責めの可能性。

機械の動作は限定的: パソコンの学習は、使用頻度から確率的に予測。

機械は自分で判断して作動することはない。

人を責める前に、自分で護る:

自己防御の努力を怠ると、ときに命にかかわることもあることを認識。

(阿岸鉄三: 炉辺医話。Clinical Engineering15(9):958-960,2004)